

# 国語教科書目次目録データベース構築と その公開に際して

金井景子・樋口恵・内木明子・能地克宜

吉田竜也・岸雅子・稲見得則・林教子

## I はじめに

二〇〇一年度の早稲田大学教育総合研究所のプロジェクトに参加し、国語教科書に関するデータベースの構築を開始した。

本データベースは、国語教育の現場において、どのような教材が供給されてきたかについて検索することを目的としている。そのため、検定教科書（小学校・中学校・高等学校）に収録されている作品の題名を網羅している。現時点では、二〇〇〇年度検定教科書から遡っておおむね一九九三年までのデータが収められ、小・中・高の目次データがインターネット上で検索・閲覧可能である。

このデータベースの特色は、以下のような点にある。

- ① インターネット上で、世界から即時にアクセスできる。
- ② 小学校・中学校・高等学校の教科書をトータルに通観し得る。
- ③ 個々の教材がそれぞれの教科書において、どの単元に位置しているのかが解る。

④ 和歌（短歌）・俳句といった短詩型の韻文については、何が収録されているのか、実際に個々の作品を把握することができる。

① について。これまでインターネット上において検索し得る国語教科書に関するデータベースは存在しなかった。本データベースは現在すでに試験運用中であるので、まずはアクセスしてみたい。URLは、

<http://www.dept.educ.waseda.ac.jp/textid/> である。

② について。従来からも、教科書収録作品の一覧ということでは、小学校・中学校・高等学校校別に、また調査対象機関を限定した形で、さまざまに試みられてきた。そうした先行する紙媒体・電子媒体のデータベースについては、後に詳述する。今回、小・中・高を通観することによって、同一作品がどの段階で供給されているのか、また、歴史的な展開の中で配当される位置に推移があるかについて、初等教育と中等教育の双方を視野に入れて確認し得ることになる。

③ について。教材がその教科書内においてどのような位置付け

を与えられているかが解るように、収録教科書名を示すだけではなく、いかなる章立ての中に配置されているかについて、出来得る限り教科書の目次を反映するようなレコード画面を作成した。具体的な画面のありかたについては、後の章で画像を紹介しているので参照されたい。

④ ④について。従来の先行する紙媒体・電子媒体のデータベースにおいては、小説や評論、随筆、詩を使う際、著者名や収録作品が明記されてきたのに対して、和歌（短歌）や俳句といった短詩型の韻文については、教科書ごとに複数の著者のものが複数収録されるといふ性格上、個別の歌や句に言及することが困難であった。ことに分量に限りがある紙媒体では、データ化を割愛せざるをえない状況にあった。

本プロジェクトでは、今回、紙媒体との比較上、データの収録量について利点のある電子媒体の特性を活かして、当該教科書に収録されている和歌（短歌）や俳句作品の全文を収録している。改めていうまでもなく、和歌（短歌）および俳句は日本文学固有のジャンルであり、これらが国語教科書の中でどのような位置を与えられてきたかについて知ることは、極めて重要である。古代から現代にいたるまで、どのような作品が規範として選択・継承されてきたかを明らかにしたいと考えた。

以上のような点に鑑み、着手したプロジェクトであるが、国語教育の当事者である教員やその受講者、研究者、教科書編集者のみならず、日本人の言語形成においてどのような教科書教材が供給されてきたかについて関心を寄せるすべての人々に活用される

ことを企図している。

以下、本データベースに実際にアクセスしていただく上での操作方法や留意点、現状で抱えている問題点などについて述べていく。

## Ⅱ 国語教科書データベース構築について

本プロジェクトでは、ファイルメーカーでの構築を選択した。ファイルメーカーは、個人の作ったデータベースを簡単にWebで公開できるという利点を持っている。ソフトの機能のひとつであるインスタントWebを使えば、Web上で簡易データベースを公開することも可能である。例えば写真にキャプションをつけたものや、論文カードなどが考えられる。また、インスタントWebより高度なカスタムWebは汎用性があり、医療用カルテシステムや在庫管理などにも広く使われている。国語教科書データベースではCDML（クラリスダイナミックマークアップ言語）を使い、カスタムWebを作成することにした。

データベースシステムを構築するとき、単にそれだけをしていれば良かった時代は、すでに過ぎ去ったと言われている。なぜなら、データの大容量化に伴うデータの保水性、セキュリティの問題があるからだ。これらのシステムの構築方法に加え、国語教科書の目次の採録に関しても本データベースは特徴を持つ。構築過程を以下に報告したい。

### これまでの教科書目録

教科書収録作品の一覧といったものは、紙媒体（雑誌・書物な

ど)において何度か試みられてきた。それらは以下のようなものであった。

1 ある一作品(ジャンル)がどのような教科書に収録されているかを一覧表にしたもの。「高等学校・中学校国語教科書(甲)所収の現代詩一覧表」では、詩に限り、単年度のみ、作者(と)にどの作品がどの教科書に所収されているかを表にしている。木村博「中学高校教科書所収「枕草子」二覧(昭和六十三年度使用)」は、単年度において、「枕草子」のどの章段が、どの教科書に所収されているかを記したものである。

2 小学校・中学校・高等学校別に、単年度の教科書の目次を収録し、教科書(と)にまとめ、冊子にしたもの。「1992年度高等学校国語教科書教材目録」では、平成四年度に使用される高校国語教科書一六五冊の目次を収録しているが、索引は付されていない。

3 小学校・中学校・高等学校別に、複数年度の教科書所収作品を収録し、著者・題名(と)にまとめ、冊子にしたもの。「中学校国語教科書内容索引―昭和24・61年度―」上・下<sup>1)</sup>では、題名・著者名などを五十音順に排列、出版社名・教科書番号・検定年度・使用年度・学年・開始ページを記載している。

1と2は、調査作品(ジャンル)・調査期間を限定したものであり、ユーザーの調査対象とその一覧表(目録)の調査対象が合致した場合にのみ有用なものとなる。3は複数年度に渡り、作品・著者を特定せず網羅しているもので、ユーザーに必要な個別の情報を調べることができる。しかし3は、同じ教科書の情報に對

し、複数の検索項目(著者名・題名など)を立てるため、大部分のものとなる。その目録を手元に入手できない場合は、調査の必要の度に教科書図書館などに足を運ばなければならない。また紙面上では記載できる情報量が限られるので、どの単元でどの作品が採用されているか、いつの時代に発表された作品が多く採用されているか、などのことは目録からは知ることはできない。

このような問題は、データベース化し、Webで検索できるようになれば、解決することであるが、これまでそのようなものはないかった。

教科書目録としてデータベース化されているものに教科書研究センターの「教科書目録情報データベース(昭和22年度～平成13年度)」があるが、こちらはWebによる公開はされていない。現在、Web上で公開されているものとしては、文部科学省ホームページ<sup>2)</sup>[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/index.htm)がある。小学校用、中学校用、高等学校用の国語教科書の教科書名・版型・主な著作者などが閲覧できるが、検索機能はない。同様に横須賀市教育情報センターホームページ<sup>3)</sup><http://www.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/>では、所蔵している「資料用教科書」(江戸後期～昭和戦前期)約三三〇〇点の教科書の書名・著作名・刊年・発行所などを閲覧することができる。但し、こちらも検索機能はない。そしてこれらは教科書の書誌情報をデータベース化したものであり、目次・内容をデータ化したものではない。

## データベースの構築

こうした現状をふまえ、早稲田大学総合研究所のプロジェクトの一環として、国語教科書の目次情報データベースを二〇〇〇年度の検定済教科書から、過去に遡り構築することとなった。文部科学省発行の『教科書目録』を参考にし、検定済年ごとに教科書の調査を行った。基本的に情報は教科書通りに採り、書かれていないことを入力する際は括弧をつけた。JISコード以外の漢字は、読み仮名の後に、「うん(さんずい+五)」のように入力している。教科書名は奥付に準拠した。ただし厳密には「国語―I」のように教科名と学年の間に線が入っているものがあるが、スペースに変えた。教科書、指導書は文末に記した図書館に所蔵されているものを参照した。ご協力いただいた方々に感謝を申し上げたい。本データベースは「教科書の目次をそのままデータベースにする」ことを主旨として、情報を閲覧できるようにしている。次に画面を紹介しておきたい。

<http://www.depl.edu.waseda.ac.jp/textdb/> にアクセスする。

図1はインターネットエクスプローラのアドレスバーに前述のURLを打ち込み、移動したものである。中心部分に「検索画面」へのリンクがあるので、それをクリックすると図2の画面になる。

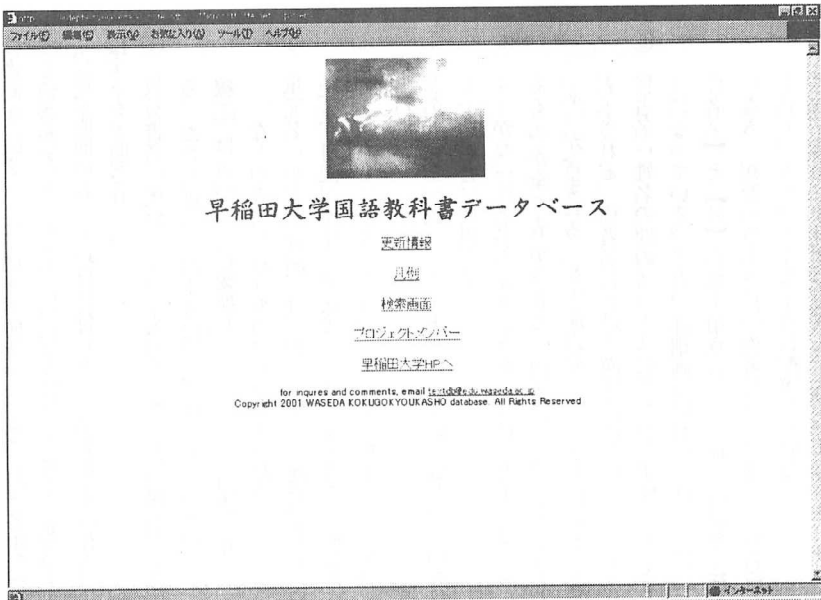


図1

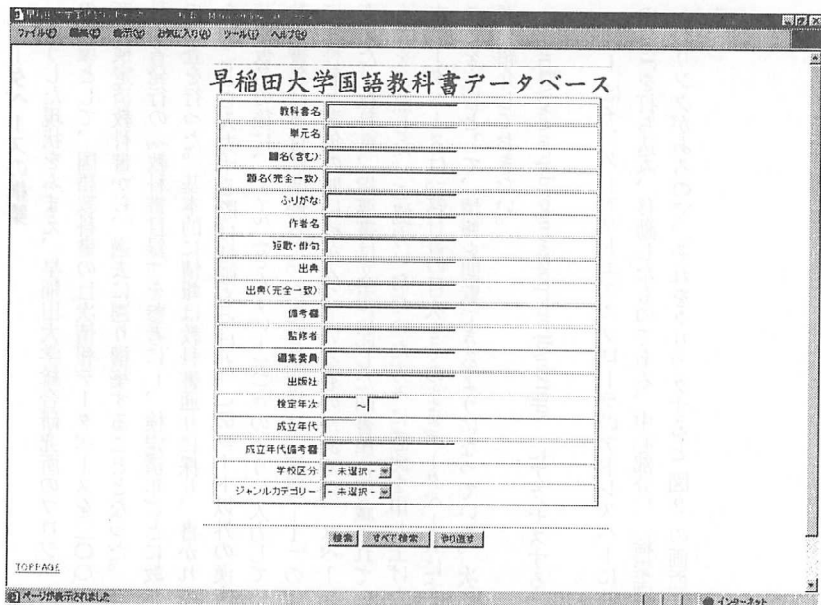


図 2

検索画面 図 2 では、様々な検索ができる。以下各項目でどのような情報が表示されるかについて詳述しておく。丸数字を 図 2 の検索画面の各入力項目に付した。詳細な検索の仕方については次章を参照されたい。

- ① 教科書名・奥付に従って入力した教科書の題名がここに入る。ただし前述したように、「国語Ⅰ」などの「Ⅰ」（縦線）はスペースに変換した。従って「国語 Ⅱ」「国語 一」などの表記の違うものは別の検索となる。
- ② 単元名・小説、評論、詩、短歌、俳句、漢詩、物語、紀行、随筆、日記、漢字、文法等のジャンルをここに記した。
- ③ 題名(含む)・・・タイトルの一部分から検索したい場合に使用する。
- ④ 題名(完全一致)・・・タイトルと完全に一致したものを検索したい場合に使用する。
- ⑤ ふりがな・作者名のふりがなをここに入力すると、該当するものが全て表示される。例えば「あ」と入力すると、「あ」が含まれる「芥川龍之介」や「与謝野晶子」などが表示される。作者名における漢字表記のゆれに対応できる。作者名・姓名の間のスペースにかかわらず検索ができるようになってきている。また、詳細画面においてはさらに「認定作者名」と【号】の項を留意した。これらの項を計算式でつなぎ、複数の筆名を持つ作者については、どの名前を打ち込んでもヒットするように配慮している。
- ⑦ 短歌・俳句・教科書の短歌(和歌)や俳句の単元中に含ま

れる全ての作品を収録した。作品中の一部の単語からでも検索が可能である。例えば「鳥」と打ち込み、検索をかけると、その語が含まれる短歌（和歌）が表示される。山部赤人「ぬばたまの夜の更けゆけば久木生ふる清き川原に千鳥しば鳴く」や、正岡子規「照る月の位置かはりけむ鳥籠の屋根に映りし影なくなりぬ」などが閲覧できる。

⑧ 出典・教科書に記載してある出典をそのまま採録した。教科書に記載されていない場合は指導書を参照し、それでも情報がない場合は「教科書・指導書に記載なし」として「作者」が「編者」の場合は、全て「書き下ろし」としてある。この欄では出典の一部を打ち込めばその単語が含まれる全ての情報が表示されるようになっていく。例えば「古今」と打ち込むと「古今和歌集」「新古今和歌集」の両方が表示される。

⑨ 出典（完全一致）・採録基準は⑧と同じだが、「古今和歌集」と「新古今和歌集」を別々に調査したい場合などに行っている。

⑩ 備考欄・特記事項から調査できる。例えば古文の歌の詞書などがこれにあたる。

⑪ 監修者・奥付の通りに採録した。監修者によって調査ができるので、教科書の傾向を知ることができる。

⑫ 編集委員・奥付の通りに採録した。

⑬ 出版社・奥付の通りに採録した。

⑭ 検定年次・教科書の検定が行われた年（西暦）から調査す

ることができる。範囲検索の計算式を入れてある。例えば1999～2000と入力すると、その間に検定を受けた教科書が表示される。

⑮ 成立年代・作品が成立した年代（西暦）を採録した。教科書・指導書に記載のない場合は調査の及ぶ限りで記してある。

A 現代文の場合・初出年を記した。教科書・指導書に記載がない場合、単行本刊行年を、単行本刊行年も記載されていない場合は全集の刊行年を記した。しかし、教科書・指導書に忠実に採録した結果、以下のような問題も起きた。例えば正岡子規の「いちのはつの花咲きいでて我目には今年ばかりの春行かんとす」という歌は、成立年代が教科書・指導書によって、一九〇一年、一九〇二年、一九〇四年と分かれている。これは教科書・指導書によって初出・所収がそれぞれ『日本』、『墨汁一滴』、『竹の里歌』とされているためである。データベースの一覧では成立年代や初出が教科書会社によって違うということになるのだが、教科書・指導書を忠実に再現した結果なので、それを尊重した。

B 古文の場合・成立年のはっきりしているものを西暦（算用数字）で入力した。しかし、成立年の不明な作品が多く、また、この欄では刊行年と成立年を区別して表示できないため、成立年代備考欄を活用して情報を補った。

C 漢文の場合・年代の特定できない作品が多いため、その作品の成立した王朝の年代を記した。なお、歴代王朝の時

代区分は『新字源』（角川書店）によった。また、文学史上の区分がある唐代は、作者の生没年も併記した。

- ⑩ 成立年代備考欄・現代文の初出情報及び、古文、漢文の成立年代についての情報（時代区分等）を入力した。これによって、年号における検索が可能になっている。

A 現代文の場合・初出誌が教科書・指導書に記載されている場合、「初出は『雑誌・新聞名』（西暦／発行月）」と入力されている。

B 古文の場合・成立年代に関する情報を当該教科書の記述を用いて入力した。古文の特性と利便性を考慮し、年号も付した。

C 漢文の場合・⑩の歴代王朝名を入力した。但し、唐代は、文学史上の初唐・盛唐・中唐・晩唐の区分も併記してある。

- ⑪ 学校区分・小学校、中学校、高等学校の区分である。

⑫ ジャンルカテゴリ・現代文、古文、漢文、表現、その他に区分した。教科書名が「国語表現」「現代語」「表現」に準じるものはジャンルが「表現」となる。また基本的に「作者名」が「编者」の教材は「その他」となる。このジャンルの教材としては漢字や表現、読書案内、古典入門、漢文入門の教材等が挙げられる。ただし小学校は区別が煩雑なため、へ未選択）にしてある。

それでは②の単元名に「小説」と打ち込み、検索をかけてみたい。実際には一覧画面が表示されるが、次章にて説明するので、ここでは割愛したい。（図5を参照）一覧画面の左端に番号が出

るので、目当てのものをクリックすると詳細画面が表示される。（図3を参照）

詳細画面で見られる情報と検索画面の関係について説明してきたい。検索画面における①から⑩の項目に関連する事項について、さらに詳しく情報を整理しておく。以下、漢数字は図3の詳細画面の各入力項目に付した。

一 教科書名・一番上に白抜き文字で表示される。図3は「高等学校 国語I」である。検索画面における①に対応している。

二 表題1・表題2・表題3・題名から遡って表題をここに記してある。例えば題名が「とんかつ」の場合、表題に「小説（一）」と記してあるので、それを採録した。

三 単元名・検索画面の②に対応している。

四 題名・検索画面の③④に対応している。

五 ふりがな・作者名・ふりがな2・認定作者名・ふりがな3・号検索画面における⑤⑥に対応している。

六 訳者・採録の本文に訳者がある場合ここに記した。

七 短歌・俳句・検索画面の⑦に対応している。

八 出典・検索画面の⑧⑨に対応している。

九 出典箇所・上記出典に細かな章段の記載がある場合に記した。古文の章段などがこれにあたる。

十 所収・現代文の場合などで、出典（初出）以外に所収（全集や単行本など）が判明した場合、ここに記した。古文では依拠した本文と考えられる『日本古典文学大系』などが該当す

早稲田大学国語教科書データベース	
高等学校 国語 I	
書名	
巻数	
巻数	小1(一)
單元名	小1
題名	とんかつ
ふりがな	みくらてつお
著者名	三浦野郎
ふりがな2	
成立年(巻名)	
ふりがな3	
著者	
注記(付)	
出版	みちづれ
出版箇所	
所収	みちづれ
備考	
記載ページ	20
成立年	1991
成立年代備考欄	
ジャンル(1)カテゴリ	現代文
監修者	阿川弘之・野地濯家・岩崎章一・浮城昌彦・宇野浩二・大槻和夫・高森彰明・内 木文英・桂樹隆雄・浜野純彦・成瀬節夫・桂野裕子・高野賢・安西聖太郎・山口 博・山本悦孝・ほか二名
出版社	学校図書株式会社
発行日	1993/02/28
学校区分	高等学校

図 3

- る。
- 十一 備考欄・検索画面の⑩に対応している。
  - 十二 記載ページ・作品が教科書に記載されている開始ページを記してある。
  - 十三 成立年代・成立年代備考欄・検索画面の⑮⑯に対応している。
  - 十四 ジャンルカテゴリ・検索画面⑱に対応している。
  - 十五 監修者・編集委員・検索画面⑪⑫に対応している。
  - 十六 出版社・検索画面⑬に対応している。
  - 十七 検定年次・検索画面⑭に対応している。
  - 十八 学校区分・検索画面⑰に対応している。
- ※成立年代、成立年代備考欄、出典、所収などの調査に際しての指導書は、文末の図書館に所蔵されているものを使用し、所蔵されていないものに関しては、参照していない。その際は「教科書に記載なし」と各欄に記した。
- 著作権について
- 教科書目次のデータベース化を考える際の最初の関門が著作権であった。著作権法第二章第二一条には以下のようにある。
- 編集物（データベースに該当するものを除く。以下同じ。）  
 での素材の選択又は配列によつて創作性を有するものは、著作物として保護する。
- 教科書の場合、この「編集物」としての権利を持っていると考えられるが、「社団法人著作権情報センター」の回答によると、目次のデータベース化は問題ないということであった。ただし、



本データベースでは短歌や俳句などの検索も可能にしたので、該当の著作権者に許諾を取ることにした。許諾が取れなかった場合は掲載していない。

現在管理上の方針を決め、運用しているが、今後状況を見てIPアドレスの制限も行う予定である。入力者が試験的に検索活動を行っている状態ではあるが、ユーザーの方からの意見をもとに可用性を高めていきたいと考えている。

### Ⅲ 検索方法の実際と注意点

では実際に検索を行っていききたい。例えば、下の図4の検索画面の検索項目のうち、前章で述べた⑤ふりがなに「あくたがわりゅうのすけ」とひらがなで入力し、左下の「検索」ボタンを押す。

すると、図5の一覧画面に進む。この画面の右下にある「次の検索結果」をクリックすると、入力したキーワードを含むレコードが順次表示される。これらの一覧から詳細なデータを表示させたい場合は、画面左端にある数字をそれぞれクリックし、図6の詳細画面へと進む。ここでは3をクリックしてみる。

この詳細画面は、前述のように一つのレコードを二六の項目によつて詳細に提示している。しかし、レコードによつては図6のように、すべてに情報が記載されていないものもある。ここで、先に挙げた①～⑩の検索項目のうち、注意すべき点を(a)現代文、(b)古文、(c)漢文の三つに分けた上で、いくつか説明していくことにする。現代文に関しては図6を参照することにする。

早稲田大学国語教科書データベース

教科書名	
單元名	
題名(含む)	
題名(完全一致)	
ふりがな	あくたがわりゅうのすけ
作者名	
短歌・俳句	
出典	
出典(完全一致)	
備考欄	
監修者	
編集委員	
出版社	
検定年次	～
成立年代	
成立年代備考欄	
章校区分	未選択 - 空
ジャンルカテゴリ	未選択 - 空

検索 すべて検索 印刷

TOPPAGE

図4



⑤ふりがな…⑥作者名…

「芥川龍之介」は教科書によって「芥川竜之介」と表記されているものもある。これらは検索ヒット数にばらつきが出ないよう、⑥作者名…の後に図6のようにそれぞれについて、括弧内に別の漢字で表記された名を入力してある。

「国語表現」等の読書感想文教材の作者が生徒であり、実名が教科書に記載されていない場合や小学校教科書の「作文」「詩」「日記」等の生徒の作品は、すべて⑥作者名…を「生徒作品」としてある。

⑬成立年代備考欄…

現代文においては、ここに初出雑誌・新聞紙が表示されるようにした。(教科書・指導書に記載のある場合に限る) 具体例として、図6では「初出は『帝國文学』(1915/11)」と表示される。初出雑誌・新聞紙から検索したい場合はこの欄を活用する。

(b) 古文の場合

古文の検索例として、詳細画面図7を掲げておく。この図7に従っていくつか注意点を述べておきたい。まずは本データベースの特徴である歌を対象に、「藤原定家」について調べてみる。⑥作者名…に漢字で入力しても、⑤ふりがな…に「ふじわらのさだいえ」「ふじわら さだいえ」「ていか」と入力しても検索できるようになっていいる。これは、読み方は教科書に準じているものの、他出版社、また流布している読み方には括弧をつけて補っているからである。

それではその他の項目を見ていきたい。

(b) 古文の場合

早稲田大学国語教科書データベース

標準 国語 改訂版

名称	
分類	
形態	古文鑑
單元名	(和歌)
題名	春の夜の夢 新古今和歌集
ふりがな	ふじわらのさだいえ
読み仮名	藤原定家
ふりがな2	(ふじわらのていか)
読み仮名2	
著者	
題名(冊)	和歌のついでに 藤原定家の和歌集
出版	新古今和歌集 671
出版年月	
所収	日本古典文学全集
収録書	百首歌集(1) 詩
総ページ	275
収録ページ	
成立年代備考欄	1205(元久2)年に編纂。しかし、その後も鎌倉幕府を中心として、何度も改訂が加えられた。
キーワード	古文
収録書	
収録書	大同律・徳川宗賢・長尾高晴・野山嘉正・法賢和房・五十嵐一勝・堀下舞之・山口明・大野正室・佐藤静夫・平藤祐司・戸井田行世・戸田種子・野田光石・橋本太・笠原社充・西宮敏・秋山伊勢雄・吉澤文彦・窪田龍之
出版社	株式会社 高学図書
発定年	1997/02/20
学校区分	高専学校

図7

② 單元名

図7では「(和歌)」と入っているが、現代文で「短歌」「俳句」と教科書に分類されている歌や句が古文では「和歌」「俳諧」と記されている。教科書に忠実なデータが基本であるため、「歌」や「俳」で検索することにより網羅的な結果が表示されるが、「短歌」「俳句」と検索しても歌や句そのものがヒットするようになってい

また、古文では、「土佐日記」や「更級日記」「日記 紀行」のようにジャンルをひとつにすることが難しい場合、教科書の分類を生かしつつ、他ジャンルを補っている。他には、「おくの細道」「紀行 俳諧」、建礼門右京大夫集「日記 和歌」などがあり、この項目を活用して、「評論 歌」と入力すれば「仮名序」「俊頼髄脳」「近代秀歌」等が、「評論 俳」と入力すれば「三冊子」「去来抄」等を引き出すことができる。

③ 題名

図7では「春の夜の夢」とあるが、これは教科書の目次によるものである。基本的に、ここは教科書の目次に従った。例えば「これも仁和寺の法師(徒然草)」などがある。

⑦ 短歌・俳句

長歌も全文入力されている。改行は「/」による。歌も句も、各教科書の漢字表記の差異により検索結果にばらつきが生じる。歌を特定できる言葉で検索されたい。

⑩ 備考欄

図7に「百首歌奉りし時」とあるように、古文の和歌では詞

書を入力している。「東歌」や「防人歌」もこの項目で検索できる。

⑬ 成立年代備考欄

古文では可能な限り年号もデータとして入力している。比較的年代の特定される江戸期については、「元禄」で検索することで、「俳諧」「浮世草子」「浄瑠璃」といった教科書における元禄の文化や出版の様子を見ることが可能である。

※また、松尾芭蕉の「おくのほそ道」「奥の細道」「おくの細道」というように各教科書による表記の差によって検索結果に違いが出てしまう場合は、③ 出典に「道」を⑥ 作者名に「芭蕉」を入力するように、共通の文字と項目を複数させることで対応できる。

(c) 漢文の場合

⑤ ふりがな

諸子百家の作品など、作者の特定できないものがある。例えば『論語』は孔子一門によるものだが、このような場合は、図8のように代表として「孔子」が括弧書きで「作者名」に表示される。また、詳細画面の「認定作者名」には本名の「孔丘」が、「号」には字である「仲尼」が表示される。このように複数の呼称から検索できるよう配慮した。

⑮ 成立年代

漢文作品は成立年不明のものが多く、ある程度の目安となるように、成立年の特定できないものについては、成立した王朝名と時代区分を入力した。その年代設定は以下の通りである。



1 『國文学解釈と鑑賞』1961・6 至文堂

2 『国文学 解釈と教材の研究』1988・4 学燈社

3 広島大学教育学部国語教育字研究室発行

4 財団法人教科書研究センター発行 1986・3

5 その他、古文、漢文に絞った目録もある。以下紹介しておきたい。

12 風間栄四郎「古文教材のデータベースの作成」『私学研修』1988・

私学研修福祉会（風間氏が適切な学習教材の選択を指して作成したデータベース。助動詞、敬語、無常など重要事項を記す項目が設けられ、教科書や問題集、参考書にある教材が対象となっている）

・吉田美和「中学校国語教科書における漢文教材一覧（その一）」『国語の研究』1993・3 大分大学国語国文学会

・吉田美和「中学校国語教科書における漢文教材一覧（その二）」『国語の研究』1993・9 大分大学国語国文学会

この画面では凡例にもリンクをはってある。併せてご覧いただきたい。

6 本論の法律条文の引用は全て「法庫」からである。http://www.hokko.com

7 社団法人著作権情報センター 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシテイタワー11F

8 著作権相談室 TEL03-5353-6922

・E-mail copyright@ctic.or.jp

・ホームページ http://www.ctic.or.jp

教科書・指導書を参照させていただいた機関名

・財団法人教科書研究センター附属教科書図書館

江東区千石1-9-28 Tel 03-5606-4311(代)

国立教育政策研究所 教育研究情報センター教育図書館

目黒区下目黒 6-5-22 Tel 03-5721-5099

東京学芸大学図書館

小金井市貫井北町 4-1-1 Tel 042-329-7219

早稲田大学教育学部学生読書室 同教員図書室

新宿区西早稲田 1-6-1 Tel 03-3203-4141(代)

金井景子・早稲田大学

樋口 恵・開智学園

内木明子・朗読家

能地克宜・早稲田大学大学院教育学研究科在

吉田竜也・早稲田大学大学院教育学研究科在

岸 雅子・早稲田大学大学院教育学研究科在

稲見得則・明治大学附属中野中学高等学校非常勤講師

林 教子・静岡県立富士宮高等学校  
早稲田大学大学院教育学研究科在